

第9回 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会 議事録

- ・日時：平成23年3月28日（月）14:00～14:50
- ・場所：西尾市役所 41 会議室
- ・出席：（自治体）西尾市 神谷副市長
蒲郡市 稲葉副市長
吉良町 富永副町長
幡豆町 星野副町長
愛知県地域振興部交通対策課 松井課長
（オブザーバー）中部運輸局鉄道部 大野部長
（名鉄）横井常務取締役鉄道事業本部副本部長兼計画部長

[発言要旨]

（事務局：西尾市企画課）

規約上、総会の議長は会長が務めるとされておりますので、本協議会会長の西尾市の神谷副市長よりしくお願いいたします。

（会長：西尾市）

本日はお忙しいところ、第9回名鉄西尾・蒲郡線対策協議会に、沿線市町、愛知県、オブザーバーとして中部運輸局並びに名古屋鉄道株式会社の皆様にご参集いただき、ありがとうございます。

本協議会は平成17年12月の設立以降、名鉄西尾・蒲郡線の利用増加及び経費削減のために様々な方策を検討し、実施してきましたが、「大量輸送機関の特性を發揮できないほどの利用者の少なさ」というこの路線の根本的な問題を解決するまでに至らず、前回の協議会で平成22年度から平成24年度を支援対象期間とし、路線の施設の維持存続に必要な経費として、年間2億5千万円を沿線市町が支援することを合意しました。

本日は、支援の確認書及びその後の利用促進計画について検討してまいります。それでは、次第に従いまして、議事を進めます。第1号議案について事務局、説明を。

（事務局：西尾市企画課）

1点目として、前回の協議会の決定に基づき、名鉄西尾・蒲郡線を道路と同様の社会基盤として捉え、鉄道施設保有に係る費用のうち、線路及び電路の材料費及び工事費、減価償却費のうち構築物の費用を支援してまいります。

2点目として、支援額は平成21年度の実績を基に算出した2億5千万円を平成22年度から24年度までの3年間にわたり支援します。支払は23年度から25年度。なお、支援は合併後西尾市及び蒲郡市で行います。それぞれの支援額は、均等割、路線延長割、駅数割から算出し、新西尾市が150,687千円、蒲郡市が99,313千円となります。この沿線市町の支援に対して、県からも格別の配慮及び多大なる支援が得られるようお願いいたします。

3点目として、平成25年度以降の事業年度の支援については、利用状況等をふまえ、改めて協議をおこないます。

この確認書は、鉄道運行及びこれに係る支援について、沿線市町と名鉄間で締結をするもの。第1条は支援に関する内容、第2条は鉄道運行の継続に関する内容、第3条は努力義務に関する内容、第4条は実績報告及び支援金の支払に関する内容、第5条は解除に関する内容、第6条は運行及び支援の継続について、第7条は協議事項に関する内容。

本確認書は、今月中の締結を予定しておりますので、契約者は沿線市町の西尾市、蒲郡市、吉良町及び幡豆町と名鉄間で締結する体裁。また、4月1日には西尾市と幡豆郡3町が合併いたしますので、合併後の沿線自治体は西尾市及び蒲郡市となり、支援金の支払いは平成23年度からの3年間、この2市で行ってまいります。

【第1号議案については異議なし】

(会長：西尾市)

続いて第2号議案について事務局、説明を。

(事務局：蒲郡市企画広報課)

第1号議案で支援に関する確認書が決定することに伴い、今後の利用促進を推進するために、「三河地域南部の重要な社会基盤である名鉄西尾・蒲郡線を将来にわたり、鉄道として維持していくために、行政、地域住民、経済界、名鉄等がそれぞれ行っている取組みを連携、充実させ、総ぐるみで利用促進・沿線の活性化を図る。」という方針のもと策定した計画。

利用促進は 名鉄を主体とする利用促進、沿線市町の利用促進(ハード)、沿線市町の利用促進(ソフト)、住民団体を主体とする利用促進、経済界・観光協会等を主体とする利用促進、学校関係機関等を主体とする利用促進、沿線既存施設の活用の7項目。

目標数値として、今後前年比1.6%増を設定。平成24年度には、活性化策を行わなかった場合と比較して、約54万人の利用者増を図る。

施策の推進体制として、従来の国、県、沿線市町及び名鉄という枠組みに、地域住民、経済界を交えて、新たに名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会(仮称)を設立。

目標のために名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会(仮称)にてアクションプランを作成。

(蒲郡市)

54万人増という目標は大変厳しい。これまで以上に沿線自治体の連携をお願いしたい。

(吉良町)

利用者の増加もいつか頭打ちになる。次回の計画策定時には目標の見直しを。

【第2号議案については異議なし】

(会長：西尾市)

続きまして、その他1として、名鉄西尾・蒲郡線の現状及び維持存続に関する検討報告書の説明を事務局お願いします。

(西尾市企画課)

この報告書は、平成21年4月に設置しました本協議会のワーキング部会におきまして、これまで整理・検討を進めてまいりました名鉄西尾・蒲郡線の現状と維持存続に関する検討結果をと

りまとめた報告書で、平成22年3月の第7回対策協議会総会におきまして、中間報告書に、これまで対策協議会において合意した具体的な支援策に関する内容と、今後の充実が必要不可欠な利用促進・活性化の計画に関する記述等を加え、さらに関連データ等について時点修正をした内容。

内容は、「1.名鉄西尾・蒲郡線の現状の整理」、「2.鉄道存続・活性化の先行事例」、「3.西尾から蒲郡間の鉄道路線維持に向けた検討」、「4.名鉄西尾・蒲郡線活性化計画の施策方針と費用削減策」で構成。

(会長：西尾市)

続きまして、その他2として、検討スケジュールについての説明を事務局お願いします。

(西尾市企画課)

来年度のスケジュールといたしましては、先の第2号議案にて承認された名鉄西尾・蒲郡線活性化計画に基づき、来年度以降は(仮称)活性化協議会にて路線の活性化を図っていき、年度明け早々に協議会を設立し、活動状況とあわせて9月の総会にて報告する予定。

設立した協議会とともに利用促進及び経費削減を推進するとともに、利用状況の確認、現状把握及び今後の本路線のあり方について検討。

3月の総会は、平成23年度の活動状況並びに平成24年度の事業計画の報告を予定。

(蒲郡市)

総会の9月開催は、議会などがあるため、前倒しの検討をお願いしたい。

(会長：西尾市)

蒲郡市さんの申し出のとおり、9月の総会の時期は検討状況も考慮しながら、柔軟に対応することとします。最後に、各自一言お願いします。

(蒲郡市)

愛知県の支援が現在も具体化していませんが、三河出身の知事のもと十分な支援が得られるようお願いしたい。

(吉良町)

鉄道は環境にやさしく、時間も正確で大変利便性が高い。反面、人口減少などローカル線をとるまく状況は大変厳しく、経営状況のみでの存廃を判断してよいものか疑問。事業者だけでなく、自治体の協力も必要。

まちづくりのうえで、鉄道が走る景観は、地域の活性化のために必要。

(幡豆町)

平成24年度までであるが、存続が決定されたことは、合併を迎える幡豆町としては大変有意義。合併の目標に幡豆郡三町の自然を活かしたまちづくりがあるがそのために、この路線の存続は必要。

(県)

県の支援については、事務的には検討を進めているが、決着していない。他の政策的判断を要する事業と同様、6月補正予算の中であらためて検討していくことになるので、ご理解をお願いしたい。

目標については、現状維持で経営が成り立つ伊勢湾フェリーと状況が異なり、西尾・蒲郡線は目標を達成しても財政支援を続けなくてはならない。地域が活性化していくといったことがなければ、いずれ住民から理解されなくなってしまうので、協議会も早急に立ち上げ、しっかりと利用促進・活性化に取り組んでいただきたい。

(名鉄)

先の東北大震災のさい、この地域でも津波注意報が発令され、安全確保のためにも運行を見合わせたので、ご報告します。なお、施設には影響はなかったのご承知ください。

確認書の締結及び計画書の策定に対して感謝するとともに、今後もできる範囲で協力していきます。

経費削減は全社的には必要性は認識しているが、この路線は駅の無人化をはじめ先行して行ってきた。現状でも鉄道の特性を発揮していないが、存続に向けて協力していきたい。

(国)

確認書の締結により、路線の存続が決定したことは中部運輸局としても大変喜ばしい。

震災により景気の低迷が懸念されるなど、路線の活性化には厳しい状況ではあるが、活性化計画に書かれているよう、住民、事業者と協力して存続を図ってほしい。

(会長：西尾市)

合併協議の中でも鉄道の必要性は確認されており、合併後は、西尾市と蒲郡市での協議となるが、国・県・名鉄に協力をいただいて存続を図っていきたい。

活性化協議会を早急に設立し、計画の実施をお願いしたい。

以上をもちまして、「第9回 名鉄西尾・蒲郡線対策協議会 総会」を終了いたします。

(以上)